

令和7年度実施 指定管理者モニタリングシート

施設の概要			
施設の名称	福祉センター愛の郷・福祉センターラポール秦荘いきいきセンター・福祉センターラポール秦荘はつらつドーム	施設所管課	福祉課
指定管理者名	社会福祉法人愛荘町社会福祉協議会	選定方法	非公募
指定期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 (2年度目)	点検日	令和7年5月
施設設置目的	<p>【愛の郷・いきいきセンター】 地域住民の福祉ニーズに応じた、各種福祉サービス、福祉情報の提供等を総合的に行い、住民の福祉の増進および福祉意識の高揚を図る。</p> <p>【はつらつドーム】 家族や地域団体が健康増進を目的としたスポーツ等を楽しむことを目的とする。</p>		
施設規模	<ul style="list-style-type: none"> ・愛の郷 鉄筋コンクリート平屋建 1,702.70㎡ 敷地面積 6,023.62㎡ ・いきいきセンター 鉄筋コンクリート平屋建 1,682.69㎡ 敷地面積 10,176.03㎡ ・はつらつドーム 鉄筋コンクリート平屋建 延床面積2271.6㎡ 		
業務概要	<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営業務 老人福祉施策、介護保険法に規定する通所介護事業等、生きがい交流活動および児童健全育成事業、人材育成などの研修および育成、各種の相談、情報サービス事業、地域福祉活動の支援、災害発生に伴う支援、その他目的達成に必要な事業 ・管理運営業務 施設の使用、利用・備品貸出 ・維持管理業務 通常清掃業務、点検・保全業務、維持管理業務 		

収支状況および利用状況						
	①	②	③	対前年度増減		過去平均
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	①・②	②・③	
収入（千円）	89,732	93,307	105,148	3,575	11,841	96,063
指定管理料	82,789	87,093	98,156	4,304	11,063	89,346
使用料	453	499	565	46	66	506
その他	6,490	5,715	6,427	-774	712	6,211
補助金等	0	0	0	0	0	0
支出（千円）	89,732	93,307	105,148	3,575	11,841	96,063
利用人数	30,190	45,628	35,971	15,438	▲ 9,657	37,263

自己評価および施設所管課評価

指定管理者

自己評価

○管理運営について

本会においては、公の施設の指定管理者として事業運営の透明性と財務規律の強化やコンプライアンスの確保など公益性の高い地域福祉を推進するため、適正な組織運営に努めるとともに、「みんなで進める 笑顔あふれる福祉のまちづくり」理念のもと、地域共生社会の実現にむけて、「みんながつながり みんなでつながる福祉活動を進めること」を目標に、顔が見える関係性から作り出す地域福祉活動の展開を意識した事業活動に取り組み、第3次愛荘町地域福祉活動計画の中間期として住民や識見を有する方などから、「今後にむけて着実に地域福祉活動が推進されている」と評価をいただきました。

施設運営においては、愛の郷を地域福祉活動の拠点とし、地域活動の備品貸出や毎週水曜日の夜間開館、自治会による福祉活動やボランティアなどの社会福祉活動への情報提供や助言などの相談対応、日常生活に課題をもつ当事者の福祉活動や町内福祉サービス事業所の地域公益活動の場に利用いただくなど、地域福祉センターを有効に活用いただくよう努めました。

さらには、物価高騰の状況が続き、今も生活に困窮する方々の相談対応をするフォローアップ支援など住民の皆さまにとって、くらしの困りごとを聴き、生活課題に対応できる身近な相談機関であることを意識して取り組みました。

いきいきセンターにおいては、訪問介護や通所介護を中心に、高齢者や障がいのある方への福祉サービスを提供するほか、健康元気もりもり教室や健康居場所づくりの提供などくらしを支える福祉活動の充実に向けて、多くの方々に感染予防に徹底しながら利用いただける在宅福祉活動の拠点として、取り組みました。さらには、地域の文化や福祉活動団体の活動を発表できる場づくりに加えて、地域における福祉やボランティアに関わっていただける体験や交流の場づくりを提供する取り組みました。

はつらつドームにおいては、いきいきセンターの管理運営業務と一体的に管理運営をすることにより効率的な運営を図り、企業等のイベントなどにより、引き続き多くの方に利用いただくことができました。

なお、毎年度実施する利用者アンケートでは、施設内の美観や利用者への接遇に対して、昨年度に引き続き多くの方が利用しやすい施設、職員が笑顔で接し、対応が良く日頃の悩みなど話すことができるといった回答も見受けられるなど引き続き高い評価をいただきました。

そのような評価をいただくなか、愛の郷では「電話を出た時に名前を名乗ってほしい」といった個別対応に関すること、「靴箱のどこに入れたか忘れてしまう」や「施設内の行事を案内してほしい」といった施設利用への配慮や要望と、「これ以上建物に血税を使わないでほしい。4月まで保育園に入園できないので、子どもを預かる場所として使用してほしい」や「体操教室を続けてほしい」、「小学生の夕方の遊び場として開放してほしい」といった福祉ニーズの声もいただきました。

いきいきセンターでは、「床にほこりがたまっていた」とご指摘をいただくとともに、「下駄箱の入口がせまい」や「駐車場から玄関との動線がづらい」といった施設構造のこと、さらには「よく似た建物が多くてわかりにくい」や「看板の文字が剥げていてわからない」といった所在がわかりにくいことへのご指摘をいただきました。

はつらつドームは「地面に凹凸がある」、「グラウンド面を整地・整備してほしい」と昨年度に引き続き整地に関する要望をいただくとともに、人工芝生への貼替や整地用具の機械化、デジタルツールによる施設利用手続きや使用料（利用料）の決済方法のキャッシュレス化の声をいただきました。

○施設の維持管理について

各種法令に基づく施設・設備点検や日常においても施設内外の清掃や点検を実施するとともに、施設利用者にも使用後の点検など協力いただくなど、住民の皆さまが日頃から気持ちよく利用いただける「身近な福祉施設」を意識した管理業務に努めました。また、子どもから高齢者まで幅広い方々が利用される施設のため、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症については、引き続き高齢者福祉施設として徹底した感染予防対策に努めるとともに、施設利用者や来館者に感染予防の協力をお願いするなど適切な維持管理に努めました。

なお、施設設置当初からの設備・機器類が多く、経年劣化による不具合箇所が多くあるため、施設利用者にご不便をおかけする事態が生じたときは、町担当課へ迅速に報告し、連携した対応に努めていますが、「庁舎等公共施設の最適配置計画」により改修等にかなりの時間を要している状況です。

○事業運営について

地域福祉においては、「つながり」を大切に第3次愛荘町地域福祉活動計画の3年目を迎え、地域活動の実態から地域生活課題の抽出と課題の可視化と取り組みの試行的な実施をするなど、16名の推進委員と話し合いを重ねた上で取り組み、これらの取り組んだことについて評価しました。

相談支援では、物価高騰が続くなか生活に困窮する方々への丁寧な話を聴き取り、町行政や福祉事務所など関係機関と緊密な連携をはじめ、フードバンクをおこなうNPO団体と引き続き提携して、緊急の食糧提供をするなど丁寧なフォローアップ支援に努めました。

介護・障がい福祉サービスでは、引き続き新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染予防に徹底し、利用者の身体状況やサービス内容等家族や支援者と頻りに連絡を取り合うなど、安心して利用いただけるサービス提供に努めることができました。また、業務継続計画のもと利用者の安否確認訓練や体制構築のための職員連絡訓練など、災害時や感染症拡大時においても業務継続にむけて取り組みました。

しかしながら、全国的に介護人材不足や報酬の減により介護・障がい福祉サービスを廃止する事業者が増えるなか、本会においても慢性的な人材不足、従事者の高齢化などサービス提供体制を維持できず、サービス提供量の低下による高齢者や障がいのある方の暮らしへの影響や本会の事業運営の継続について危惧するところです。

○収支状況について

生活困窮者への相談支援やフォローアップ支援など多様な地域生活課題への対応が求められるなか、町行政と一体的に対応する地域福祉権利擁護事業・生活困窮者自立支援事業・生活福祉資金フォローアップ支援や相談体制整備費等の特定財源を充当するほか、高齢者の健康居場所づくり事業などの他の公益事業を実施しつつ、限られた人員配置のもと効果的な事業展開と効率的な業務執行を努めることができました。さらには、物価高騰による水道光熱費や施設燃料代をはじめとする経費が増加しましたが、経費節減や事務費・事業費の執行時にさらなる精査等に努めた結果、指定管理料の精算において、執行残が生じたため全額返還しました。

	今後の目標	<p>町立福祉センターの設置目的と役割を引き続き果たすため、公益性の高い社会福祉法人としての組織運営を図り、「みんなで進める 笑顔あふれる福祉のまちづくり」の基本理念のもと、引き続き「みんながつながり みんなでつながる福祉活動を進めること」を目標に、住民をはじめ関係機関・団体、社会福祉活動者と協働した福祉活動の推進を図ります。さらには、第3次愛荘町地域福祉活動計画の計画期間が令和8年度をもって終了するため、今後の福祉のまちづくりむけての展望と地域福祉活動の展開にとって必要なことを計画化していく取り組みを始動します。</p> <p>そのようななか、住民のくらしをきめ細やかに支える地域福祉センターの使命とそれぞれの施設に住民から求められる役割を果たすため、愛の郷においては、住民をはじめボランティアなどの社会福祉活動・企業などの地域における公益的な活動への支援、生活困窮等くらしの困りごとを抱える方々への相談対応と支援など地域福祉活動の拠点として有効に活用していきます。</p> <p>いきいきセンターにおいては、高齢者や障がいのある方が住み慣れた地域でできる限り暮らしたいとの想いを支えるため、安心して利用いただける質の高い訪問介護や通所介護のサービス提供に努めるとともに、新たに実施するつながり健康居場所づくりや地域における福祉活動をアウトリーチにより支援を図ります。</p> <p>なお、各施設とも整備後25～30年が経過しており、空調設備や照明器具など設備や機器類については、経年劣化による不具合が顕著になっています。健康面などのリスクを抱えて利用される方々の施設でありながら、利用される方にご負担をおかけしている事態が見受けられます。</p> <p>住民にとって、いきいきと暮らしていただける質の高い「福祉」の提供と、「福祉」を地域においても身近に感じていただけるよう期待に応えてまいります。</p>
施設所管課	所管評価	昨今の福祉分野における多様化するニーズに細かく向き合い対応しようとしている。施設管理についても迅速な対応を行っている。
	指導事項等	特になし。

総合評価（指定管理者選定審査委員会）

<p>C（良好）</p>	<p>適切に管理運営されていると評価する。丁寧な対応により利用者アンケートでは高評価を得ており、引き続き住民の福祉増進にご尽力いただきたい。 なお、施設が築20年から30年を経過しており老朽化が進んでいるほかLED化が未実施であるため、町は他施設も含め計画的な公共施設マネジメントに取り組まれない。</p>
---------------------	---